

明治維新最後の内戦「箱館戦争」で敗れた旧幕府軍の戦死者を弔うため、函館市山麓に碧血碑が建てられて、今年で140年。6月25日には節目の慰霊祭や「旧幕府軍を偲ぶ会」が函館で開催され、参加者が追悼の思いを新たにしている。全国から旧幕府軍関係者の子孫が集まったこの機会をどう受け、子孫5人を北海道新聞函館支社に招いて座談会を開き、幕末・維新史に詳しい札幌在住のノンフィクション作家合田一道さんと司会で、先祖への思いなどを語り合ってもらった。

(西村翔、発言者の敬称略)

合田一道 榎本武揚は8隻の艦隊を率いて江戸・品川沖を脱走し、蝦夷地の森野ノ木に上陸し、一気に五稜郭を侵襲しました。武揚はどんな思いだったと考えますか。

榎本隆充 歴史書には武揚は戦争をするために箱館へ行ったとある。私はずいぶんはなな、徳川家の権威が滅びていくことを失うであろう旧幕臣を蝦夷地に開拓に当たらせようとしたのではないかと考えます。ロシアの南下に備える意味もあった。松前藩とも一緒にやっていたことでしたが、松前藩が受け入れず、結果的に交戦になった。「蝦夷共和国」は、短い間だが存在したと私は考えます。米仏などが共和国の交戦団体を認めていたことを示す文書が残っています。



中島恒英さん

碧血碑建立140年 旧幕府軍の子孫が座談会



合田一道さん(右端)を司会に、座談会で先祖への思いを語る旧幕府軍関係者の子孫5人

強い絆で慰霊 函館に感謝

碧血碑 函館市谷地頭町にある旧幕府軍戦死者の慰霊碑。新政府軍は旧幕府軍の遺体の埋葬を禁じたが、義憤に駆られた柳川熊吉が実行寺などに遺体を葬り、その後、谷地頭町に改葬。榎本武揚や大島圭介らの協力を受け1875年(明治8年)、碧血碑を建てた。旧幕府軍の敗戦が決定的となった6月25日(旧暦5月16日)に例年、有志でつくる「函館碧血会」が慰霊祭を開いている。

二股口の戦い 1869年(明治2年)4月、二股(現北斗市中山)であった箱館戦争の激戦の一つ。乙部町から上陸し箱館を目指す新政府軍に対し、土方歳三率いる旧幕府軍が16か所の塹壕(ざんごう)を掘り陣地として対抗。新政府軍の侵襲を許さなかった。

麦叢録(ばくそうろく) 小杉雅之進が箱館戦争の様子を絵と文章で克明に記録した書物。1869年、津軽・弘前の最勝院に幽閉された時に書いたとされる。

小杉伸一 開陽丸が沈んだ時、雅之進は26歳。いわば「機械屋」であり、40代後半だった三郎助とは違って、戦いの目的を考へるところまで至らなかったのでは。

柳川厚史 熊吉は若い時に江戸で武揚に会っており、武揚や旧幕府軍への共感があったと思う。戊辰戦争では旧幕府軍の遺体の埋葬や供養に各地で俠客が関わっている。「かわいそうじゃねえか」という義侠心が動いたのでは。箱館の人も遺体が放置された状況を何とかしたく



小杉伸一さん

榎本 蝦夷共和国は存在した

土方 最期まで前向いて戦う

中島 江戸出る時死を覚悟か

小杉 絵巧みに「麦叢録」執筆

柳川 義侠心から戦死者埋葬

合田 新政府軍は乙部から上陸して江差、松前を攻め、箱館を総攻撃します。歳三は、二股口の戦いを経て、五稜郭から打って出て戦死します。

土方 定説では新選組の仲間が多くを失い、蝦夷地に死に場所を求めたとされています。でも私には、どいどい死んでもいいと身を投げ出したように思えない。部下もいたし、二股口では米つき場も設け周到に態勢を整えた。最期まで前を向いていたように思います。



柳川厚史さん

合田 箱館総攻撃では旧幕府軍の多くの兵士が戦死しましたが、新政府軍のものがめを恐れて誰も手を出さなかった。この時

中島 三郎助は武揚と品川を出る時、息子との死を覚悟して

合田 武揚は降伏前、オランダ留学の際に持ち帰った「万国海律全書」を敵である新政府軍に贈っています。国際法と外交については記された書です。

榎本 自分は負けて滅んでしまおうが、将来の日本のために残さなくては、という思いがあったのでは。これから日本は外国

合田 武揚は降伏前、オランダ留学の際に持ち帰った「万国海律全書」を敵である新政府軍に贈っています。国際法と外交については記された書です。

榎本 自分は負けて滅んでしまおうが、将来の日本のために残さなくては、という思いがあったのでは。これから日本は外国

合田 武揚は降伏前、オランダ留学の際に持ち帰った「万国海律全書」を敵である新政府軍に贈っています。国際法と外交については記された書です。

榎本 自分は負けて滅んでしまおうが、将来の日本のために残さなくては、という思いがあったのでは。これから日本は外国

合田 箱館戦争終結の後、小杉雅之進はなぜ「麦叢録」を書き残したのか。戦場場面などの図絵が素晴らしい書物です。

小杉 私の特長ですが、彼は長崎海軍伝習所で蒸気機関を勉強した。当時、技術屋には絵を描く力が必要でした。雅之進は五稜郭の戦いの後で幽閉され、たっぷり時間もあった。そこで麦叢録を書いたのでは。25年前には麦叢録に載せた以外の図絵が見つかった。引越しの時にふたを開けた長持ちの中にあっただけです。たくさん描いた残りだったのでは。

合田 碧血碑ができて140年。旧幕府軍の末裔としての思いを。

榎本 きちんと供養してくれた熊吉にも、代々、碑を守ってくれた函館の人たちにも感謝しています。

土方 熊吉から聞いたという話を聞き残した手紙が家に残っています。熊吉が歳三の首を後年、碧血碑に改葬してくれたとあります。今でも関係者が集まって法要できるのは、強い絆があるからだと思います。

小杉 今回、慰霊祭に参加するに当たって、母から140年間、きちんとお守りしてくれた函館の方々にもお話を聞かせていただき、ありがとうございました。

合田 松前城を落とした武揚は開陽丸で北上しましたが、江差沖で沈没してしまふ。船の機関を担当したのが中島三郎助で、それを補佐したのが小杉雅之進。沈没時、2人はどんな心境だったのでしょうか。



土方愛さん

座談会参加者 (敬称略)

■合田一道(81)…ノンフィクション作家。元北海道新聞記者。札幌在住。近著に「幕末群像の墓を巡る」(青弓社)。

■榎本隆充(80)…榎本武揚(1836~1908年)のひ孫。東京農大客員教授(日本近代史)。東京都在住。武揚は幕府留学生としてオランダで国際法や軍事などを学び、旧幕府軍を率いて江戸を脱走、箱館に「蝦夷地臨時政権(蝦夷共和国)」を樹立し総裁に就く。箱館戦争降伏後は明治政府に登用され外相などを務め、開拓使中判官として北海道開拓にも尽力した。

■土方愛(めぐみ)(44)…土方歳三(1835~69年)のおいの玄孫。土方歳三資料館(東京都日野市)館長。日野市在住。歳三は63年(文久3年)、近藤勇らとともに京都で新選組を結成。箱館戦争では各地で陣頭指揮を執るうち狙撃され、戦死した。

■中島恒英(つねふさ)(70)…中島三郎助(1821~69年)のひ孫。「開陽丸子孫の会」会員。神奈川県海老名市在住。三郎助はペリー来航時に浦賀奉行と力として折衝役を務めた。箱館戦争では新政府軍への降伏を拒絶し、千代ヶ岳陣屋で長男恒太郎、次男英次郎とともに戦死した。

■小杉伸一(62)…小杉雅之進(1843~1909年)のひ孫。「開陽丸子孫の会」会員。横浜市在住。雅之進は長崎海軍伝習所で機関学を学び、咸臨丸で渡米。戊辰戦争では開陽丸に乗船して箱館に来航し、旧幕府軍の江差奉行並に就いた。箱館戦争降伏後、「麦叢録」を残した。

■柳川厚史(47)…柳川熊吉(1825~1913年)から数えて5代目の子孫。函館在住。熊吉は江戸生まれ。箱館で俠客となり、五稜郭築城の際には労働者の動員に貢献した。箱館戦争では新政府軍の圧力に屈せず旧幕府軍の戦死者の埋葬に尽力した。

柳川 前に出てお話を聞かせていただき、ありがとうございました。